

2022年6月吉日

運輸総合研究所 研究報告会 2022年夏（第51回）ご案内

拝啓 時下益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

運輸総合研究所におきましては、「研究報告会 2022年夏（第51回）」をオンライン配信および会場参加にて開催することとなりました。

つきましては、ご関心をお持ちの皆様におかれましては、ご参加を賜りますようご案内申し上げます。

ご参加にあたりましては、大変恐縮ですが、申込み専用URLからお申込み頂きますようお願い申し上げます。

敬具

記

日 時：【1日目】 2022年7月26日（火） 13:30～16:40

【2日目】 2022年7月29日（金） 13:30～16:40

（開場は両日ともに13:00～）

会 場：オンライン配信（Zoomウェビナー）及び運輸総合研究所2階会議室

費 用：無料

プログラム： 前回の報告会より、研究員からのそれぞれの発表にコメンテーターを設け、報告の概要と意義についての解説や討議、質疑応答を行いました。発表時間、討論、質疑応答の時間が短いとのご指摘がありました。こうしたご指摘を踏まえ、**今回の報告会より、研究報告や討論などの時間を十分確保するために、2日間にわたり開催**することと致しました。（詳細別紙参照）

お申込み： 下記のURLよりお申し込みください。

<https://krs.bz/jterc/m/sympo51>

申込期限：2022年7月22日（金）まで



※お申し込み頂いた方には、**以下のとおり視聴用URLをご送付**いたします。

【1日目】7月25日（月）、【2日目】7月28日（木）

Supported by  日本 THE NIPPON
財団 FOUNDATION

運輸総合研究所は日本財団の助成を受けて活動を行っております。

お問い合わせ：一般財団法人運輸総合研究所（担当：新倉(にいくら)）
〒105-0001 東京都港区虎ノ門3-18-19（UD神谷町ビル）
TEL：03-5470-8415 FAX：03-5470-8401
E-mail：collo@jttri.or.jp HP：<https://www.jttri.or.jp>

運輸総合研究所 研究報告会 2022年夏(第51回)



【1日目】

- 日 時：2022年7月26日（火）13:30～16:40
- 会 場：オンライン配信（Zoomウェビナー）及び運輸総合研究所2階会議室
- 費 用：無料
- その他：撮影・録音は禁止させていただきます。

<プログラム>

- | | | | |
|------|-------|-----------|-------------|
| 開会挨拶 | 宿利 正史 | 運輸総合研究所会長 | 13:30-13:40 |
| 報告概要 | 山内 弘隆 | 運輸総合研究所所長 | 13:40-13:50 |

報 告

- (1) 「公共交通利用がソーシャルキャピタル醸成に与える影響についての考察」
13:50-15:10

発 表 覃 子懿 研究員
コメンテーター 宇都宮浄人 関西大学経済学部教授
討論・質疑応答
(発表概要)

地方の公共交通事業規模の縮小やサービス停止による住民のモビリティの低減や、地域コミュニティ・住民間の社会ネットワークの衰退が懸念されている。従来、公共交通事業の存続を検討する際には、経済的利益を重視した費用便益分析的な観点を中心であったが、本研究では、ソーシャルキャピタル（社会関係資本）というアプローチに基づいて、公共交通からもたらす社会的な利益も考慮すべきと立場から、公共交通とソーシャルキャピタル醸成の関係性を検証し、地方公共交通政策に関する新たな示唆を得ることを目的とする。

- 休 憩 15:10-15:20

- (2) 「新型コロナウイルス感染症が出張需要に及ぼす影響に関する研究」
15:20-16:40

発 表 安達 弘展 研究員
コメンテーター 奥村 誠 東北大学災害科学国際研究所/大学院工学研究科教授
討論・質疑応答
(発表概要)

新型コロナウイルス感染症の感染拡大を契機に、移動の自粛や働き方の変容が進み、企業の出張が大幅に減少し、鉄道や航空等の幹線移動の需要は著しく低迷している。本報告では、新型コロナウイルス感染症の感染拡大が企業の国内出張行動に与えた影響について、WEBアンケートの結果を基に紹介する。

(討論・質疑応答) モデレーター 山内 弘隆 運輸総合研究所所長

【2日目】

- 日 時：2022年7月29日（金）13:30～16:40
- 会 場：オンライン配信（Zoomウェビナー）及び運輸総合研究所2階会議室
- 費 用：無料
- 言 語：英語での発表は同時通訳を行います。
- その他：撮影・録音は禁止させていただきます。

<プログラム>

報告概要 山内 弘隆 運輸総合研究所所長 13:30-13:40

報 告

- (1) 「働き方の多様化を考慮した新たな都市鉄道運賃に関する基礎的研究」
13:40-15:00

発 表 小林 渉 研究員
コメンテーター 手塚広一郎 日本大学経済学部教授
討論・質疑応答
(発表概要)

コロナ前より、社会構造の変化により働き方変化し、都市鉄道利用者の行動パターンも変化している。一方で、利用者の活動の変化に合わせて都市鉄道の運賃は大きく見直されていない。本研究では、国内外の運賃に関する事例を収集し、利用者視点で望ましい都市鉄道運賃を検討する。また、運賃導入有無による利用者の活動変化のシミュレーションもおこなう。

休 憩 15:00-15:10

- (2) 「日本企業のロジスティクスとサプライチェーンのレジリエンス戦略を
実装するためのステータスと意欲を調査する研究」
15:10-16:30

発 表 マハルジャン ラジャリ 研究員
コメンテーター 開沼 泰隆 東京都立大学システムデザイン学部教授
討論・質疑応答
(発表概要)

COVID-19パンデミックによる需給・物流へのグローバルかつ広範囲な影響により、ロジスティクスとサプライチェーンのレジリエンスの重要性がこれまで以上に浮き彫りになっている。本研究では、日本企業の物流・サプライチェーンの強靱性向上に寄与することを目的として、業種の異なる日本企業を対象にアンケート調査を実施し、COVID-19がもたらした日本企業への影響、COVID-19流行前の物流・サプライチェーンの強靱性戦略の実施状況、COVID-19流行時及び流行後の物流・サプライチェーンの強靱性戦略の実施意向を調査した。

(討論・質疑応答) モデレーター 山内 弘隆 運輸総合研究所所長

閉会挨拶 佐藤 善信 運輸総合研究所理事長 16:30-16:40

運輸総合研究所 研究報告会 2022年夏(第51回)

開会挨拶 宿利 正史

一般財団法人運輸総合研究所会長

1974年東京大学法学部卒、運輸省（現：国土交通省）に入省。航空局審議官・管理部長・次長、大臣官房総括審議官、自動車交通局長、総合政策局長、大臣官房長、国土交通審議官、事務次官を歴任。2013年8月から東京大学公共政策大学院客員教授（交通政策）、2014年4月から一般社団法人国際高速鉄道協会（IHRA）理事長、2021年6月から公益財団法人日本海事センター会長を務める。2018年6月より現職。



報告概要 山内 弘隆

一般財団法人運輸総合研究所所長／一橋大学名誉教授

慶應義塾大学大学院商学研究科博士課程修了。中京大学商学部専任講師、経済学部専任講師、一橋大学大学院商学研究科教授、一橋大学大学院商学研究科科長兼商学部長を経て、現在、運輸総合研究所所長兼一橋大学名誉教授。専門領域、交通経済論、公共経済学、公益事業論、規制の経済学。内閣府PFI推進委員会委員、国土交通省交通政策審議会委員、同社会资本整備審議会臨時委員等を歴任。



閉会挨拶 佐藤 善信

一般財団法人運輸総合研究所理事長

1982年東京大学法学部卒、運輸省（現：国土交通省）入省。空港部長、航空ネットワーク部長、航空局次長、観光庁次長、海上保安庁次長、航空局長等を歴任。2019年8月より現職。東京大学公共政策大学院客員教授（観光政策）を兼務。



～ 講演者・コメンテータープロフィール ～

報告① 覃 子懿

研究員

早稲田大学大学院アジア太平洋研究科博士後期課程修了。博士（学術）。滋賀大学環境総合研究センタープロジェクト研究員、情報通信研究機構の勤務を経て、2021年5月より運輸総合研究所研究員。公共交通とソーシャルキャピタルの研究に従事。



報告①コメンテーター 宇都宮 浄人

関西大学経済学部教授

1984年京都大学経済学部卒業。1991年マンチェスター大学修士（経済学）、2021年京都大学博士（経済学）。1984年日本銀行に入行。2001年一橋大学経済研究所専任講師、2003年日本銀行調査統計局物価統計課長、2010年同金融研究所歴史研究課長などを歴任。2011年から現職。2017年度はウィーン工科大学客員教授を兼任。主著に『地域公共交通の統合的政策』（東洋経済新報社、2020年刊、日本交通学会賞〈2021年〉、第42回国際交通安全学会賞受賞〈2021年〉）など。2021年日本交通学会副会長。専門は交通経済学、経済統計学。



運輸総合研究所 研究報告会 2022年夏(第51回)

報告② 安達 弘展

研究員

2006年東京都立大学大学院土木工学専攻終了、株式会社建設技術研究所入社。2020年8月より運輸総合研究所研究員。



報告③ 小林 渉

研究員

2020年芝浦工業大学理工学研究科博士後期課程修了。博士（工学）。同年より運輸総合研究所研究員。専門領域は交通計画（鉄道）。



報告④ マハラジャン ラジャリ

研究員

東京工業大学工学部博士課程修了。東京工業大学博士研究員を経て、運輸総合研究所に勤務。専門はサプライチェーンネットワークの設計、外国人観光客の避難行動、ロジスティクスとサプライチェーンの回復力。主な研究テーマは、流通ネットワークの設計、人道的ロジスティクス、外国人観光客の避難行動及びロジスティクスとサプライチェーンの持続可能性と回復力の強化。



報告② コメンテーター 奥村 誠

東北大学大学院工学研究科教授

1984年京都大学工学部卒業、1986年同大学大学院工学研究科修士課程修了、1991年京都大学博士（工学）取得。京都大学助手、講師、広島大学助教授を経て、2006年より東北大学教授。JICAブラジリア大学、SATREPSポリビア熱帯氷河、総合地球環境学研究所シベリアプロジェクトに参画。専門は土木計画学、都市間交通計画。「途絶する交通、孤立する地域」東北大学出版会（2013）、「土木計画学」コロナ社（2014）、の著作がある。土木学会論文奨励賞、日本都市計画学会論文賞等を受賞。土木学会論文編集委員長、「運輸政策研究」編集委員長を歴任。



報告③ コメンテーター 手塚広一郎

日本大学経済学部教授

1995年一橋大学商学部卒業、1997年一橋大学大学院商学研究科修士課程修了、同博士課程単位取得退学の後、2005年3月一橋大学より博士（商学）取得。2002年4月から2012年3月まで福井大学教育地域科学部・助教授・准教授を経て、2012年より日本大学経済学部・教授、2022年より日本大学経済学部・学部長。日本海運経済学会・副会長、公益事業学会・事務局長/理事、日本交通学会・理事などを歴任。専門分野は、交通経済学・産業組織論。



報告④ コメンテーター 開沼 泰隆

東京都立大学システムデザイン学部教授

武蔵工業大学工学部卒業、同大学院修士課程修了、早稲田大学大学院理工学研究科博士後期課程単位取得退学。早稲田大学理工学部助手、東京都立商科短期大学講師、助教授、東京都立短期大学助教授、首都大学東京システムデザイン学部准教授、教授を経て、現在、東京都立大学システムデザイン学部教授。博士（学術）。オペレーションズ・マネジメント&ストラテジー学会会長、公益社団法人日本経営工学会副会長を歴任。専門領域はサステイナブル・サプライ・チェーン、人道支援サプライ・チェーン、グローバル・サプライ・チェーンの設計/再設計などのオペレーションズ・マネジメント分野。

